

稲田の子

いつも校舎内外の美化のために、ありがとうございます。

校長 榎澤 実

稲田小学校をいつもきれいにしてくれています後藤さんと矢萩さん、本当にありがとうございます。早朝より、一生懸命に校舎内外の掃除をしていただいています。感謝の心をもって、気持ちよく生活してほしいと思います。



校門前をきれいにしてくれている後藤さんです。



芝生の周りをきれいにしてくれている矢萩さんです。

授業の様子、パート3 この号では5年生です。

大型連休が終わりましたが、子どもたちのしっかりと集中して勉強する姿が見られます。

← 5年3組



算数で1m³の大きさを実際に体験している場面です。けっこう入るね！

国語で物語の続きを作っている場面です。どんなストーリーになるのか楽しみ！

5年2組



5年1組

国語で大切な所を再度読んでいる場面です。いつも本文に戻ることが大切！



「感謝」とは？ 意識して見てみよう！

感謝の気持ちを表すのに「ありがとう」という言葉があります。「ありがとう」の語源は有り難いです。「ある」ことが、「難しい」ということ。ということは、なかなか、ないということ。だから、「ありがとう」だそうです。あるのが当然は、「当たり前」。いつも、当たり前と思っていると「ありがとう」の気持ちは、出てきませんし、声に出して言えません。皆さんのまわりには、たくさんの「ありがとう！」があるはずです。意識して見たり、聞いたりしてみましよう。そして、感謝の「ありがとう（ございます）！」を大切に。

平成28年度PTA評議員会・部会開催 稲田っ子の健やかな成長のためにお力を！

雨が降りしきる中、11日(水)に行われた評議員会、部会にはたくさんの保護者の皆さんにお集まりいただきました。

学校にかかわる最大のボランティア組織がPTA活動です。これまでも会員相互のできる範囲でのご支援ご協力をいただいております。一番の協力は参加していただけること。日常的にも、ご都合のつく時に、気軽に足を運んでもらえ、子ども達の様子・学校の様子や実情などを共有され、子どもたちの幸せのためによいと思われることをみなさんと、ともに取り組んで参りましょう

お子さんの健やかな育みは、お子さんへ目をかけるとともに他の子どもたちの様子も気にかけることが大切です。学校教育目標「ひとみキラキラ、やる気マンマン、心ポカポカ、体グングン」目指し、学校と手をつなぎながら、みなさんと健やかなお子さんの育みを、そして稲田小の子どもたちの育みに努めて参りましょう。



評議員会の席上で、「運動会の席取り方法」改正の概要について発表されました。

運動会当日の花火の合図と共に行う席取りは廃止され、事前にお子さんにくじをひいてもらって、運動会前日にくじ順に席取りをするものです。詳細は別途ご案内いたします。

自転車乗り方教室から 安全運転の励行に 努めましょう！

自転車運転の在り方が全国的に問われ、法律も改正されるなど、市町村の人口規模にかかわらず、その実情は大変注目され、問題視されています。帯広も平地が多いこともあり、人口のわりには自転車人口が多い都市でもあります。

こうした中、昨日12日(木)から、2年生の自転車乗り方教室が始まりました。大変忙しい中、市の安心安全推進課板倉係長さんをはじめ、市の交通指導員さん計5名のみなさんにご来校いただき、ご指導いただきました。

痛く、悲しい交通事故に遭わないように、かけがえのないたった一つの自分の命を守るため、交通ルールを守り、安全確認をしながら自転車に乗せたいですね。

本校の校区は近隣も含めると、共栄通、弥生新道、稲田通り、学園通り、西5条通りなど多くの幹線が走る校区です。歩行者優先の意識を持ちながら、危険で迷惑な乗り方にならないように、もちろん車にも「とまる、みる、まつ」を合言葉に十分気をつけていきたいと思います。

子どもたちの
安心安全を守る
取組から



集団下校訓練から

昨年度の実施同様、あいにくの大雨が降る中、方面別に分かれての集団下校訓練が行われました。より条件の悪く実施することも、よい訓練につながります。

放送の合図で、順に12グループごとの集合場所にそれぞれ児童が集合します。かさや外靴をもつての集合ですので低学年は特に大変です。そしてグループごとに子どもたちの氏名確認や担当教諭による注意事項等の指導のち下校体制に入ります。601名が一気に移動するためには、大変細やかな目配り、気配り、段取りが必要になります。

当日は雨の中、自宅付近まで出迎えて下さったご家庭も多数おりました。感謝申し上げます。

今後も状況に応じた様々な集団下校の形など、更に具体的で、効率よい、機能的な下校体制について、引き続き協議を進めていきます。

熊本での震災は、今なおその爪痕が大きく、建造物の損壊とともに、人々の生活と心の傷はまだ元には戻らず、また癒やされることなく、避難生活を強いられている方々が多数いらっしゃいます。遠く離れた北海道・帯広もまったくよその話ではありません。

本校も、毎年この時期に火災を想定した避難訓練と、秋に地震発生を想定した避難訓練を行っています。帯広消防署南出張所の4名の消防士さんをお招きした過日の避難訓練は、今年も「お・か・し・も」(おさない、かけない、しゃべらない、もどらない)を合い言葉に、各教室から移動した子どもたちの様子は、ここ数年の中では大変スピーディに、安全に避難することができていました。いつ起こるかかわからない災害から自分の身を守るために日常的な心構えを持つことが大変大切なことです。

引き続き学校では、集団下校訓練の反省も生かしながら、避難方法や避難場所、また登下校の時の地震等の発生時の対応など、子どもの安心安全を守る学校の危機管理の精度を高めていきます。

自分の命は自分で守る意識を育てたい！



601名の大避難訓練から